

# 中央の名よ光あれ

# 100

「6人の支部創立者に思いを馳せて」  
100周年記念特集

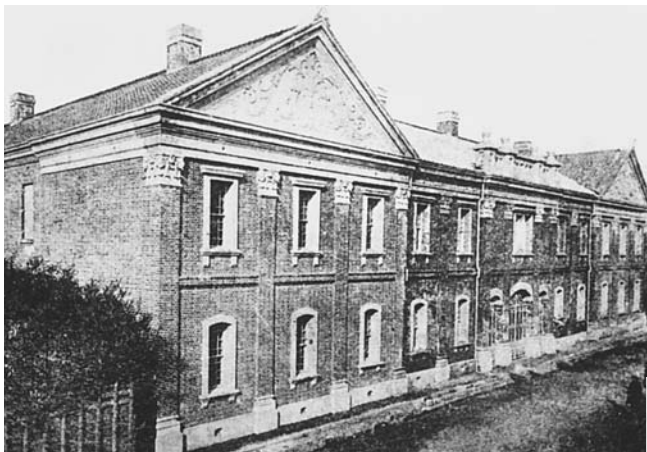


駿河台校舎 1926(大正15)年11月落成

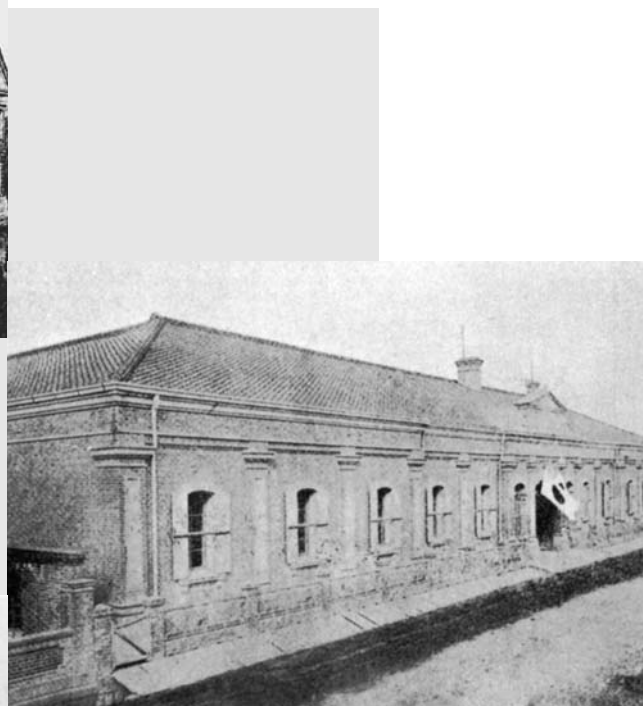
関東大震災後に修築された本校舎 1923(大正12)年10月竣工

再築校舎 1918(大正7)年8月竣工

## [ 秋田県支部が創立された頃の校舎 ]



英吉利法律学校(右)・東京英語学校新校舎 1889(明治22年12月竣工)



神田大火災後の再築校舎 1892(明治25年8月竣工)



創立20周年記念講堂 1905(明治38年9月落成)



創立25周年記念増築校舎 1910(明治43年11月落成)

平成16年6月12日に開催されました創立100周年記念式典において、阿部理事長が明治37年5月14日に6名の発起人のもと秋田県支部が創立された、と祝辞で述べられておりました。

そこで、支部といたしましては記念誌の作成に当たり、この方々のお名前を探してみることを大きなテーマとして掲げました。ところが、実際どのようにして調べたらよいのか暗中模索の状態が続いておりました。

大学に問い合わせてもなかなか分からず、どうしたらよいのかと思っておりました。しかし、理事長がお話になったのであれば必ず何か根拠があつてのことだと思い、大学の中村晋総務部秘書課長さんをお願い申しあげました。

その結果秘書課の皆様や立山智保子さんの多大なご尽力によりまして、法学新報第14巻第6号(明治37年6月10日刊)に東京法学院大学秋田院友会の創立の記事が掲載されていることが判明いたしました。早速コピーを送っていただいて拝見し、大変感激いたしました。

早速支部長にご報告いたしました。また編集の関係者で何度も読み直しながら同時に思いを馳せ、さらにこの「100周年記念誌」が持つ未来への意義に確信を持った次第です。

前頁には当時の校舎の写真を掲載いたしました。文末には「法学新報」の原本コピーも掲載いたしましたのでご覧いただきたいと思ひます。

さて、この記事に基づいて当時の時代背景などを調べてみました。

1904年(明治37年)2月8日にロシアとの交渉が決裂し日露戦争が開戦しております。

法学新報に「…時局談法律論云々」とありますので、たぶん日露戦争の戦局等が大きな話題のひとつとして上がったのではないのでしょうか。

当時の物価は「もりそば2銭」「天井並10銭」「東大授業料35円」、流行歌「ロジャコイ節」「日本陸軍」「軍神橋中佐」などがありますがどのような歌だったのでしょうか。

映画は日露戦争実況映画、世相語として「陥落」「沈没」「軍神」など、ベストセラー「藤村詩集」「桜の園」(チャーホフ)、文芸誌「新潮」創刊、話題の商品「クリームパン」(中村屋)、戦争玩具、日露戦争記念絵葉書など。またこの年に大蔵省専売局が発足し、たばこが専売となりました。「大和」「朝日」「山桜」「敷島」「チェリー」などがあつたようです。

そのような国際・国内の時代背景の中で県内では、明治37年今の県民会館の場所に県公会堂が竣工し、11月3日に開堂式が行われています。工費は当時の金で88,000円だったそうです。その他秋田工業高校開校、勝平得之生誕などいわゆる本年100周年と言われる事柄を重ね合わせると、更に当時の秋田の事情がよく分かるのではないのでしょうか。また翌明治38年には奥羽線が全線開通しています。

更に、この記事から推測できることは院友諸氏が「秋田在住の…」とあり、創立協議会のメンバーは必ずしも秋田県出身者だけではなかったと思われ、その精神は阿部理事長先生の言われる中央大学の伝統「家族的情味」として現在も受け継がれているのではないのでしょうか。

職業はやはり法律関係が多く判事や弁護士、税務監督局などのほか安田銀行(富士銀行の前身)員、秋田公論(当時の新聞記事はインターネットでも見られる)主筆などなど。

「公園」とはたぶん今の千秋公園で「招魂社」とは護国神社の前身のようですが、そこで写真を撮ったと記されているので、どこかにその写真が存在するのではないかと思います。ますます興味深くなります。

余談ですが、文中に「院友諸氏」が「三十余名」とあり、正確な人数は出ていないのですが、座間を周旋した舞妓が35(年齢ではなく、たぶん人数)と明確なもの面白い。

いずれにしてもこの記事から様々な事が想起され、創立者や大先輩の生きた時代とその活躍などが髣髴とさせられます。

大学の方々のご協力によってここまで判明できたことに感激し、改めて皆様に感謝を申し上げたいと思ひます。

# 法學新報

第十四卷  
第六號

(明治37年6月10日刊)

○東京法學院大學秋田院友會 秋田在住の東京法學院大學院友諸氏は去月十四日を以て秋田支部創立協議會を兼ね春季大懇親會を春氣麗かなる公園柏木亭に催したり來會者は北嶋傳四郎(辯護士)古澤五郎(同)久保要藏(稅務監督局長)平山勘次(判事)松山計雄(同)千葉公資(司法官試補)安達元之助(同)永井喜久治(秋田日日新聞社長)伊藤新四郎(秋田公論主筆)佐藤亮象(安田銀行員)北嶋宇一郎(邦語科二年生)稻見冬藏(校外生)客員福原秀郎(判事)等三十餘名にして午後二時各員着席するや先づ創立委員の提示せる支部會則七個條を決議して東京本部の承認を得ることとし尙ほ理事として古澤、北嶋の二辯護士、久保局長、平山判事、永井社長を推薦し夫れより一同招魂社前なる柳綠花紅の下に打ち揃ふて撮影を爲したりて直ちに開宴となり三五の舞妓座間を周旋し時局談法律論湧くか如く一同歡を盡して散會したるは午後八時頃なりしと